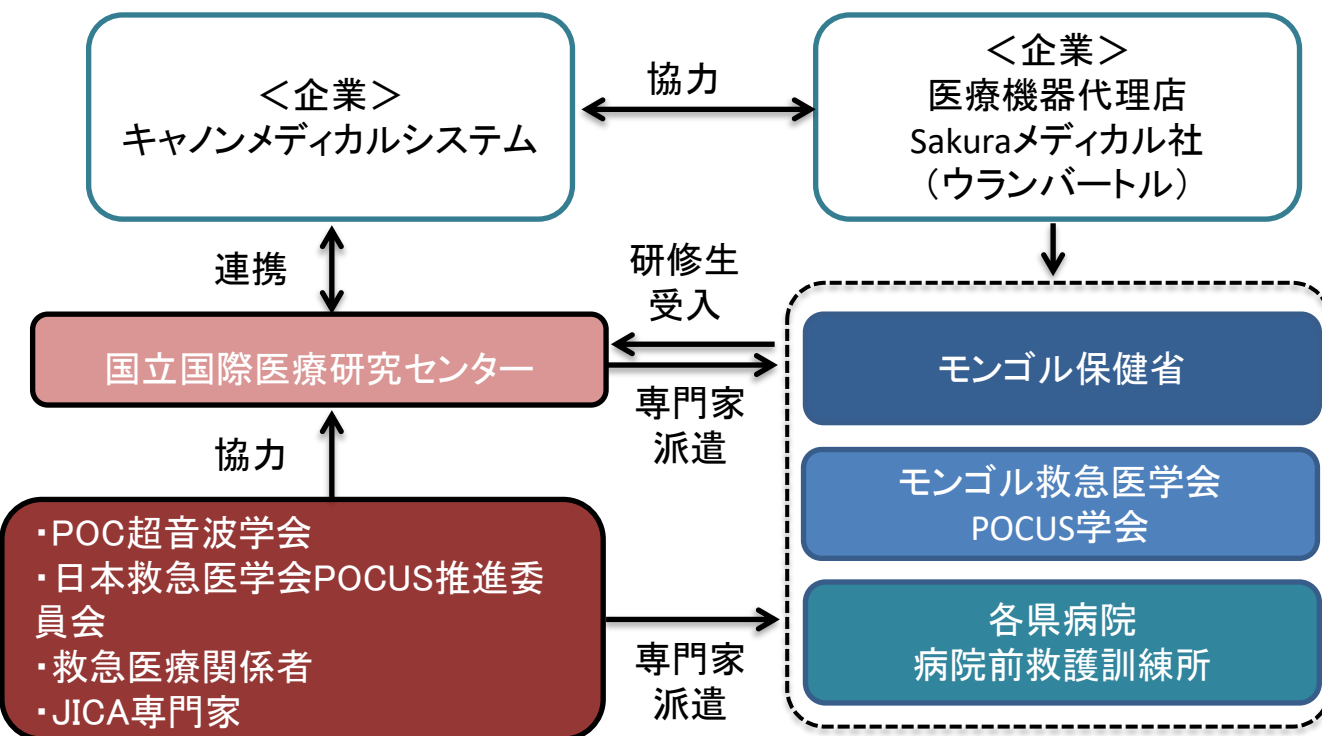


モンゴル国の地域におけるPOCUSを用いた救急診療能力強化事業

- モンゴル国では近年主要死因に心血管疾患や外傷が多く、超音波検査（POCUS）の充実により、救急医療の質の向上が期待できる
- 日本で既にPOCUS研究会を中心に開発された研修が、2021、2022年モンゴルのウランバートルの医師たちに提供され、2022年にはインストラクターも養成された。
- 現在、救急医療の現場に必要な基本的内容にとどまる研修内容を、手技への応用を含む、高度な内容を含めるものにしたいとの要望がモンゴル側からあったため、本年度は研修内容を発展させることを目指す。
- 継続して本事業が国内で実施されるようになるため、人材育成とガイドライン作成も試みる。
- 本事業を通して、モンゴル国内の救急診療に従事する医師の救急診療能力の向上が期待できる。手技に関する内容を含めることで、診断及び治療の両方で、モンゴル国全体の救急医療の水準の向上が見込まれる。



- <研修スケジュール予定>**
- 6月 日本人専門家(4名)**
 - ・研修ニーズの確認・現地でのデモンストレーション
 - 9-10月 日本人専門家(4名)**
 - ・POCUS研修(アドバンスド版)の開催
 - ・ガイドライン案の協議
 - 11月 モンゴル人関係者(4名)**
 - ・訪日研修として、救急医学会で実施されるPOCUS研修会に参加
 - ・日本における研修実施体制も学ぶ
 - 12-1月 日本人専門家(4名)**
 - ・モンゴル人指導者によるPOCUS研修(アドバンスド版)の開催
 - ・ガイドラインの確定